

令和5年度 議会町づくり懇談会を終えて

(1) 関ヶ浜地区での課題を議会で審議

* 通学路の安全確保

問 小学校児童の安全を考えバス通学はできないか。県道の交通量の多さや昨今の猛暑を考えると安全と言えない。

答 通学路安全推進会議でもバス通学が必要という見解・意見はない。登下校は学校管理下で、通学方法等は学校が決定し、また法律で通学距離や時間の基準が示され、該当しない。

* 子供たちのボール遊びの場を

問 子供たちのボール遊びの場所がない。緑ヶ丘の町営住宅地付近に確保できないか。

答 既存住宅の入居者が全て転出後に解体を予定しているが、跡地利用の計画は現在ない。駐車場や緑ヶ丘団地の公園整備は必要と考えるが、ボール遊びが可能かはわからない。

* 災害時の避難態勢／Wi-Fi 設置／自動販売機

問 災害発生のおそれがあり、「警戒レベル3 高齢者等の避難」が発令された場合、早朝深夜に関わらず避難所への送迎を町はできるのか。

答 避難情報の発令が深夜に及んでも、避難支援の要請があれば、公用車により要請者住宅から避難所まで送迎を行っている。

問 関ヶ浜分館に災害時対応で Wi-Fi 設置の要望がある。現在、町内で Wi-Fi の利用できる施設はどこか。

答 コミュニティセンター各階に1つ、役場庁舎、保健相談センター、和木駅、蜂ヶ峯公園の7箇所。関ヶ浜分館は携帯電話の通信エリア内に位置しており、インターネットでの情報収集が可能であり、Wi-Fi 設置の需要はあっても行政サービスとしての必要性はないと考える。

問 関ヶ浜分館に災害時対応の自動販売機は設置できないか。現在、町内に緊

急時の支援販売機はあるのか。

答 支援販売機は庁舎内や蜂ヶ峯公園など5箇所に設置されている。支援販売機は避難勧告や避難指示が発令された場合、町と会社の協議で飲み物が無償提供されるシステムだが、緊急時には分館の水道や町から飲料水の供給がなされる。現況では自動販売機の必要度は高くないと判断する。

問 関ヶ浜地区の今後を見据えた地域の活性化をどう考えているか。

答 町内全域で少子高齢化と地域の過疎化が急速に進み、集落機能の存続と地域活力の低下が危惧される。高齢化対策や空き家対策など、住民への情報提供と町施策の継続が必要と考える。

問 体育センターの卓球台の買い換えを要望。

答 来年度に数台の買い換えを予算要求する。

問 分館裏の山側の土砂が排水溝に流れ込む。

答 12月末に山側に砂止めを施し、排水溝内に排水設備を設ける。

* 関ヶ浜川の整備

問 自治会は年2回の一斉清掃時に、関ヶ浜川の掃除を行っているが、川に降りる階段が少なく増やして欲しい。また支流の川床整備も必要。

答 階段設置は県岩国土木事務所に要望を伝達。支流の川床は流れを阻害せず現状のままで理解いただきたい。

問 定期的に川のしゅんせつ浚渫工事ができないか。

答 令和5年度に県は浚渫事業に1500万円の予算を組み予定している。

問 町内の一時停止「止まれ」の路面表示が消えかかり、早急に対策が必要ではないか。

答 公安委員会に対応を要望する。

* 急傾斜地の整備管理が困難

問 住民の高齢化が進み、急傾斜地の竹や雑草が整備できなくなっているが、

急傾斜地はどこが管理し整備するのか。

答 通常の維持管理である伐採や除草、水路清掃は関係する地権者、住民が行うことになっている。整備は住民の要望を町が聞き、県に要望し事業を実施してもらう。

* 県道北中山岩国線及び県道岩国大竹線の整備事業は

問 県道の地蔵堂から日本製紙付近にかけ木々が覆いかぶさり、横断歩道の標識が見えず、街灯も暗い。通行が危険で対応が必要だ。

答 交通標識は公安委員会に報告し、木々の整備は山口県に対応を要望する。

問 県道が狭くなり大型車が多く危険で、歩道の縁石も低い。拡張工事は進んでいるのか。

答 県は今年度、道路改良事業として用地測量、設計に5千万円予算を入れている。

問 関関バイパスから両国橋への道が狭く、トラックが和木を通過する。両国橋への道路改良はできるのか。

答 県は今年度、道路改良事業として、設計に2千万円予算化している。

* 空き家対策が必要では

問 関ヶ浜地区では空き家が目立ち始め、そこに鳥獣が住み着き衛生面で問題だ。防災面でも地域住民に深刻な影響を及ぼし対策が必要ではないか。

答 町では空き家戸数や空き家率を把握しておらず、相談件数も2件と少なく、空き家バンク制度の登録もない。他の事業に優先する事業とは考えていない。

問 空き家の解体費用やリフォーム事業の助成など、「空き家条例」を作り対策をするべきでは。

答 町は現時点では条例化の必要も、解体費用への町単独での補助金も考えていない。

＊関ヶ浜1丁目地区の下水・雨水の整備問題

問 以前より問題となっていた下水への雨水浸入問題だが、経緯と状況は。

答 平成24年度から28年度にかけ400万円で送煙調査・カメラ調査を実施し、管渠及びマンホールとの継ぎ目から雨水の浸入が判明。平成31年度に管渠更生工事を2千万円で実施。

問 今後の大雨の対策は。

答 補助事業で改築工事を進めていく。